



十勝組だより

第30号

発行所
新得町立教寺院内
十勝組々長事務所
発行人
千葉 照 映
千 葉 照 映
題字 揮毫 住職 氏
字 押 寺 院
妙 覚 谷 協 働 暢 氏

震災支援活動を終えて

十勝組 玄誓寺 上 本 周 作

今回は十勝組より総勢十七名で、被災地東北、岩手県大槌町に未だ数ある仮設住宅の中の大槌第八仮設住宅へお伺いし、炊き出し並びにお茶つき(茶話会)ポランティア

の活動を行わせて頂きました。前泊した釜石市内も然り、バスの中から見えてくる光景に震災が残した大きな爪痕が今なお残ることを知らされ、言葉を失いながら大槌町へと向かいました。

交流会に先立ち、東日本大震災三回忌総追悼法要として、葉を交えてのお勤めがあり、一緒に参加した光明寺(木野)のみなさんから、子ども会で作成したプレゼントが手渡されました。

交流が始まると、焼き台を開き、ジンギスカンやブタジン、三平汁を頂きながら現地の方々と交流を深めましたが、話を聞かせて頂く中で、今なお被災地は「被災地」であることを強く感じさせられました。

帰りたいのに帰れない辛さ、大切な人を失った悲しさ…

震災から二年の月日が経過する中で、時間的、場所的にも離れれば離れるほどに遠い記憶となり、

どこか他人事へと気持ちが薄れさせてしまっていたことや、被災地のみなさんにとっては、今なお現実の問題であることを現地の光景を目の当たりにし、話を聞かせて頂く中で気がつかされることとなりました。

集まりの最後には、皆で歌を歌って締めとなりましたが、現地のみなさんの笑顔が何よりも嬉しく、こちらを喜ばせて下さいました。私に何が出来るのか…。出来ることは極々限られたことかもしませんが、今の私に出来ること、その一つ一つの積み重ねをこれからも継続させていきたい…。

薄れかけていたその気持ちを改めて思い起こされた尊いご縁となりました。

合掌

大槌町の 仮設住宅を訪ねて

光明寺 木野 門徒

三間 富子

東日本大震災からまる二年が近づいていた一月、若さんより今回の企画を知らされて、すぐに申し込みをしました。元気なうちに現

地に行つて何かしたいと常々思つていたからです。

すると二人の婦人会員も賛同してくれて、結局坊守さんと四人で参加することになりました。偶然にも訪れる大槌町は、いつもお寺で顔を会わせる仲間の息子さん一家が被災し亡くなった土地でもあったため、その思いは一層強くなりました。出発の前々日にお寺に集まり、当日の手間とゴミを省くための材料等の下ごしらえ、お茶っ子(茶話会)で配る十勝銘菓の袋詰め、台所用品の確認など、ただ見ぬ現地に思いを馳せ作業をし



ボランティアツアー参加者名簿

ました。

悪天候に出発も危ぶまれましたが、何とか一行は花巻空港で

	氏名	所属寺
1	千葉 照映	立教寺
2	藤本 実	仏照寺
3	皆川 隆信	太子寺
4	皆川 智恵	太子寺
5	白井 ちさと	光明寺
6	三間 富子	光明寺
7	阿部 光江	光明寺
8	鈴木 和恵	光明寺
9	桃井 信之	光心寺
10	石田 智秀	妙法寺
11	上本 周作	玄誓寺
12	頼田 光明	光音寺
13	頼田 経子	光音寺
14	筒淵 幸子	光音寺
15	杉崎 志津子	光音寺
16	宮 祐介	本光寺

合流しました。目的の地が近づくにつれ、テレビで見慣れているはずの光景があまりにも悲惨で言葉になりませんでした。

仮設住宅での炊き出しの日、朝から晴れてはいましたが、風が強く冷たい中で、手分けをして準備にかかりました。

山あいに雅楽が響き渡り三回忌の法要がとまりました。涙ぐんでいる人も多く、当然のことながら今なお深い悲しみを抱えて暮らしていることを痛感しました。

メニューのジンギスカンと三平汁はとても喜ばれました。舌鼓をうちながら、震災後の生活などの話を聞かせていただきました。

「ともすると家にとじこもりがちな寒い時期、身も心も温まった



ことでしよう」と現地の支援者に言われ、本当に来て良かったと思えました。

今回、何かをさせて頂いたというよりは被災地の現状を知り、今後自分に何が出来るかを問う機会になったと思います。

最後に、私たち一行を送り出すにあたり、様々なボランティアをしてくださったみなさんに心より感謝申し上げます。

十勝組 僧侶研修会 (教区巡回学習会) 開催報告

組実践委員会副委員長 高田芳行

去る九月二十八日十勝川温泉親月苑において僧侶寺院のための「人權高座」、組僧侶研修会(教区巡回学習会)が組内二十二ヶ寺二十七名の参加の中、講師は昨年度に引き続き奈良県出身の落語家、露の新治師匠を招き開催された。教区からは寺井紹道教務所長、林川渉教区実践運動副委員長、上野見正教務所主事が巡回され、脇谷暁融組研修部長も教区実践運動常



任委員として役を担った。

本研修会は「教区差別学習プログラム五ヶ年計画」の四年目をむかえ御同朋の社会の実現をめざす私たちが「差別を無くすために考え語り行動し」差別のない安穩な社会の実現をめざして学びを深めることを目的とする。

研修日程は十二時三十分より講師・教区巡回者・組三役・組研修部間で事前打ち合わせをし、十三時三十分から開会式。十三時五十分より脇谷暁融氏より①門信徒会運動と同朋運動としての基幹運動②基幹運動から実践運動③教区差別学習プログラム五ヶ年計画の講義。十四時二十分より露の師匠より①差別は不当な分け隔て②社会意識としての差別観念③戦争は最大の人権侵害④コンプレックスは自分差別⑤加差別と被差別⑥狭山事件の問題点等の人權高座。十六時より林川渉氏より①差別の現実を学ぶ重要性②傍観者は差別者であった等の講義があり、差別を無くすために自分が主体となり考え行動することを寸劇を通して学

ぶ。十六時二十分より班に別れた話し合い法座、十七時二十分より全体協議。主な意見①差別の現実を学ぶことを怠っていた②改めて差別は身近な問題だと気づかされた③差別問題に対して傍観者だった自分を知った④どうして教団内で差別問題が起きているのか⑤差別は自分の心と向き合うことが大切⑥差別の問題は重い問題として避けていた⑦教団人として現在の教団の門主制、世襲制をどう理解しているのか⑧差別は人の命を奪う等

露の師匠のまとめでは「差別を受けている人の身になれば、差別を減らすというより差別を無くすこと」「差別と戦争は間違いや」と語り、十八時二十分に閉会。

本研修会をふり返って、今後も差別の問題を学び、語り合い、無くすために考え行動していくことの重要性を感じた。行動することによって、次の学びの課題が見えてくる。組内においては学びの入り口に立ったばかりで「差別を無くすために自分が主役となる」という意識は低調であるように思われる。「差別はあってはならないこと、でもしてしまわなければならないこと、そのことに聞き直らないこと」という指摘を受け止め、今

後は『十七年の総括と現状』(一九九四年札幌別院差別落書き事件)と二〇〇八年北海道教区連続差別ハガキ投書事件の活用も考え、組内の現状をしつかり認識して取り組んでいきたい。

僧侶研修会レポート



二月六日、七日の二日間にわたり、平成二十四年度の十勝組僧侶研修会が、組内僧侶など二十八名の受講者のもと、帯広別院・十勝川温泉親月苑にて開催されました。講師には、昨年引き続き富山県勝福寺住職である藤島秀天師にお越し頂き、「六神通の願に学ぶ」という講題で大変熱のこもったお話しを頂きました。六神通の願は今まであまり注目をされていませんでしたが、この願に学ぶ事の意味は、人間の五感をより研ぎ澄ます事を通して、わが身の不完全さ

Cブロック 門徒総代研修会



十勝組総代会部部長 桃井 信之
平成二十四年度の「北海道教区Cブロック総代研修会」は、十月二十五・二十六の両日、十勝川温泉・ホテル大平原を会場とし、十勝組の主管にて、盛大に開催されました。

寺井紹道教務所長、佐藤弘教区総代会長をはじめ、道東各地より総代・住職方にご参集いただき、参加者は総勢一〇名

Cブロック 総代研修会

や人間としての苦しみに出遇っていくことであり、それは真実の本願念仏を引き受けていく環境作りをすることでもあるとお話し下さいました。そして、この感覚が真宗僧侶に欠けていることが問題なのであり、我々はもつと理屈ではなく鋭敏な感覚を養わねば、大衆に向かつて話をするには出来ないと言指されました。今回は二日間という短い日程でしたが、先生の熱い思いがひしひしと伝わってくる研修会でした。

を数えました。

講師には岐阜聖徳学園大学・教育学部教授の譲西賢先生にご出向いただき、「真宗門徒の証—いま宗祖に聞く—」と題してご講演を賜りました。譲先生は心理学をご専門とされる研究者で、仏教、ことに浄土真宗のみ教えにもとづくカウンセリングを行う臨床心理士でもあります。ご講演では、私たち人間凡夫の内面を深く掘り下げられた上で、私たちの人生におけるお念仏のみ教えに遇うことの意味を、ユーモアを交えながら明快にお話し下さいました。

今回の研修会全体に対する評価は、総じて高かったと聞いています。これもひとえに松田正志十勝組総代会会長をはじめ、スタッフの皆さんによる周到なる準備、ご尽力の賜と深く感謝申し上げます。

平成二十五年度のCブロック総代研修会は、釧路組を主管として開催される予定です。

十勝組仏教婦人会連絡協議会役員

過日の臨時総会で役員が選出されましたのでお知らせ致します。

会長	井上 八重子	西然寺
副会長	中川 和子	浄福寺
庶務	藤井 徳江	佛照寺
	松浦 和子	立教寺
会計	大木 聖子	浄信寺
	田村 華榮	大正寺
監査	奥秋 康子	寿光寺
	藤村 由恵	帯広別院

十勝組・帯広別院テレホン法話 当番担当表 2013(平成25)年度

眞淨寺	永田 弘彰	8月1日～8月15日
佛照寺	藤本 実 円	8月16日～8月31日
太子寺	皆川 隆 信	9月1日～9月15日
妙法寺	石田 智 秀	9月16日～9月30日
浄信寺	窪 寺 貴 洋	10月1日～10月15日
眞淨寺	梅原 真依子	10月16日～10月31日
光音寺	頼田 亨	6月1日～6月15日
浄水寺	齋藤 秀 芳	6月16日～6月30日
玄誓寺	上本 周 作	7月1日～7月15日
眞淨寺	永田 弘彰	7月16日～7月31日

☆宗門目標 御同朋の社会をめざす運動(実践運動)
☆総合テーマ 「そとつながる ホッがつたわる
～結ぶ絆から、広がるご縁へ～」

テレホン法話 (0155)21-7777
十勝組ホームページ <http://www.tokachiso.com>
北海道教区ホームページ <http://www.hokkaidohongwanji.jp>
(IDは寺院番号6ケタ、パスワードは教区時報第194号に各寺同封)

編集後記

千葉新体制のもと、その活動をまとめてみました。
取材の出来なかつたものもあり全部の取組を掲載は出来ませんでした。
次年度は数多くの行事などを取り上げられるように努力したいと思います。

(加藤)